

行 事 名 称	第121回技術者倫理研究会 例会
開 催 日 時	2026年1月20日（火曜日）18:30～20:30
開 催 場 所	Web中継、各地域本部等
主 催	公益社団法人日本技術士会登録 技術者倫理研究会 engineeringethics-studygroup
参 加 者	全国で119名参加（うち北陸本部参加者8名）
演 題	技術士と技術者倫理
講 師	橋本義平氏 技術士（情報工学）
講 演 資 料	あり
内 容	<p>2007年、日本技術士会はプロフェッション宣言と行動原則を示し、技術士が社会から信頼される専門職であることを明確にした。その背景には、技術が社会へ及ぼす影響の拡大と、倫理的判断の重要性がある。</p> <p>技術者倫理を実践する力は、知識量の多寡ではなく、日常の姿勢や行動に表れるものである。技術士は専門知識を有するが、それだけで満足してはならず、多様な視点から自らの在り方を考える必要がある。技術者倫理は技術士個人の課題にとどまらず、技術に依存する企業や組織、そこに関わるすべての人の共通課題である。倫理は対人関係の規範であり、まず同僚から認められ、信頼される存在になることが重要である。技術士は自らの責任を自覚し、行動することを恐れず、当事者として仲間と共に考え行動すべきである。小さな声掛けや関わりを通じて周囲に良い影響を与え、技術者集団の指導者として、公衆から信頼される存在を目指すことが求められる。</p>
所 感	<ul style="list-style-type: none"> ・技術者倫理の第一人者である橋本先生の講演は、幅広い視点から技術士の在り方を考えさせる内容であった。 ・講演のまとめとして示された “Do no harm（他人に害を与えない）” という言葉は、技術士に求められる倫理を最も簡潔に表している。 ・他人に害を与えないためには、自分だけでなく、同僚や経営者、関係者に自らの信念を伝え、理解を得て共に行動する力が必要である。 ・技術士の倫理は、単なる技術的善悪の判断ではなく、状況に応じて正しい判断を行い、行動し、その結果に責任を持つ姿勢である。 <p>と強く思った。</p>
記入者：2026. 1. 22 倫理委員会 阿部治彦	